

2019（平成31・令和元）年度事業報告（神戸みらい学習室）

1. 学習会事業

（1）学園都市校の開校（神戸市西区：西部拠点） 平成29年8月開講（3年目）

①場所：大学共同利用施設 UNITY 2階セミナー4（市営地下鉄学園都市駅すぐ）

②主なスケジュール

3月17日（日）新年度説明会（保護者・受講生参加）

3月24日（日）開講（受講生22名）

以降、毎週日曜日午後13時半～16時半に実施（最終3月1日、全48回）

※コロナ感染症対策のため3月8日以降休校

③年度末時点の参加者数

・受講生数 36名（3年16名、2年15名、1年5名）

・講師数 30名（神戶外大5名、兵庫県大6名、神戸大2名、灘高校3名、神戸高専1名、神戸市看護大1名、他大学2名、社会人10名）

・スタッフ数 8名（神戸市職員7名、三田市職員1名）

⑤進学実績 16名（公立一般5名、公立推薦3名、私立8名）



（学園都市校の学習室の風景（UNITY 2階セミナー4室）。右の写真は受験直前期の様子）

（2）本山校の開校（神戸市東灘区：東部拠点） 平成30年8月開講（2年目）

①場所：コープは～とらんどハイム本山1階地域交流室（JR神戸線摂津本山駅8分）

②主なスケジュール

3月24日（日）開講（受講生9名）、ほか学園都市校と同様

③年度末時点の参加者数

・受講生数 10名（3年4名、2年5名、1年1名）

・講師数 11名（神戸大1名、甲南大4名、関学大1名他）※複数回以上参加者

・スタッフ数 3名（神戸市職員1名、兵庫県職員1名、社会人1名）

④進学実績 4名（公立推薦1名、私立3名）



（本山校の学習室の風景（コープは～とらんどハイム本山1階地域交流室）。右の写真は受験直前期の様子）

(3) 教育の充実の取り組み

- ①夢ゼミ（大学生が中学生に、海外留学体験や大学生活等をプレゼン）
 - ・学園都市校で月1回程度（11回（4～1月））。本山校でも初の実施（1回（1月））。
- ②受講生ごとのカルテ（指導記録）やメンター・プログラム
 - ・毎週末、互いの特性や相性を踏まえた講師と受講生の最適マッチングを実施。
- ③兵庫統一模試への参加：受験料助成の導入（3年のみ）
 - ・4・9月比較では12名中11名の偏差値が上昇。1月には受験直前の本番経験提供
- ④推薦入試対策として、論文指導、模擬面接
 - ・12月神戸新聞社講義、1～2月受験指導プロの講師の論文添削指導、模擬面接
- ⑤保護者面談（7～8月）

(4) イベント

- ①新年会（1月）／居心伝／大学生・スタッフ（22名）。来賓：寺崎秀俊神戸市副市長
- ②卒業式（3月）／延期中（コロナ感染症対策の影響）

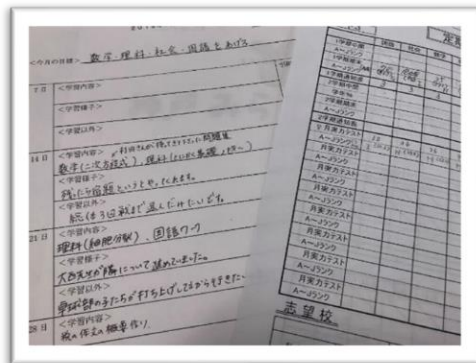
夢ゼミでは、2校延べ12人の大学生が講演



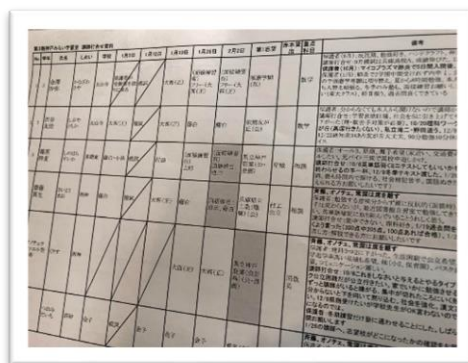
(夢ゼミ (8月灘高校K君))



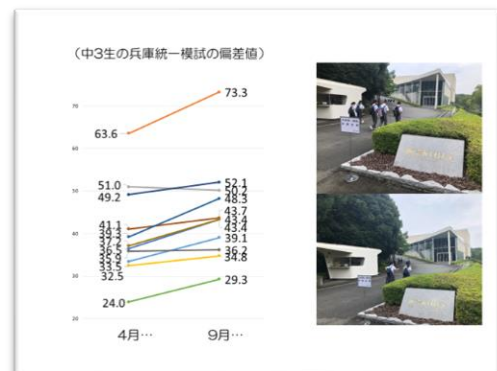
(夢ゼミ (1月神戸外大N君))



(受講生カルテ)



(メンタープログラム)



(外部模試)



(1月新年会 ※寺崎副市長見学时)

2. 情報発信の取り組み（団体ホームページ、フェイスブックページ開設等）

- ① HP) <https://www.kobemirai.com>（平成29年11月 開設）
- ② FBページ) 神戸みらい学習室（平成29年12月 開設）
- ③ 団体リーフレット) 令和元年5月刊行
- ④ 活動紹介動画) 令和2年4月完成
- ⑤ 報道等
 - ・神戸大学で代表が講義 2019/10/24（地域資源をつなぐソーシャルイノベーション）
 - ・神戸新聞 2019/10/4（地域貢献の意義 湯浅誠さん講演 12日西区）
 - ・FMわいわいの「街ブラ～人と街とくらしを探る」に代表が出演 2019/8/10
 - ・朝日新聞 2019/6/23（学びと夢 塾通えぬ子に）
- ⑥ 受賞
 - ・2019年度パナソニック教育財団子どもたちの“こころを育む活動”優秀賞受賞（2月）



3. 財源確保等の取り組み

- (1) 一般財団法人大吉財団と覚書締結（運営資金及びイベント支援、運営助言等）（4月）
- (2) 令和元年度コープ共済連地域ささえあい助成の事業採択（6月）
- (3) 令和元年度BE KOBEMIRAI基金助成の事業採択（10月）
- (4) 令和元年度ユニティ連携・交流推進事業助成の事業採択（12月）
- (5) 寄付募集
 - ・継続寄付（コングラント）、都度寄付（ジンドウ）、直接振込の3パターン
 - ・新たに共感寄付の活用も開始（公益財団法人ひょうごコミュニティ財団）（12月）
 - ・令和元年度寄付金は472,000円。

4. 神戸市や他団体との連携等

- (1) **神戸市学習支援連絡協議会** 平成30年10月13日当団体が呼びかけて設立（2年目）
 - ・市内学習支援の7団体で教育の質向上や情報発信を推進
 - ・10月12日（土）13～14時【協議会】15～17時【講演】17時～【懇親会】居心伝講演：湯浅誠さん「地域貢献する意味」（UNITY401）
参加約90名（学習支援7団体、神戸市職員（市研修）、地域住民等）。後援：神戸市、神戸市社会福祉協議会、支援：コープ共済連、運営：一般財団法人大吉財団



（湯浅誠さん講演会）



（講演会会場の様子）

(2) 学習支援団体等との連携（2019年度は学習支援の課題調査）

- ① 11月2日、3日：無料塾全国大会（名古屋）
- ② 11月20日：キッズドアとのヒアリング（東京）
- ③ 11月21日：全国学習支援ネットワーク代表の Leaning for all とのヒアリング
- ④ 2月5日：Leaning for all と学習支援の質の向上に向けた連携協議
首都大学東京 阿部彩教授とヒアリング
東京大学先端科学技術研究センター（中邑教授他）とのヒアリング

(3) 神戸市との連携

- ・BE KOBEMIRAI基金プロジェクトへの参画
- ・神戸市職員研修所（湯浅誠氏講演会を市研修として実施（市職員の参加を受け入れ））
- ・代表と市長の懇談（10月以降、概ね1回程度）
- ・子育て応援団（平成30年12月～）市ホームページへの掲載他
- ・神戸市ソーシャルブリッジ事業（平成30年度～プログラム参加等）

(4) コープこうべとの連携

- ・本山校の会場提供、及びスタッフ支援。受講生募集チラシの無料戸配（7月）
- ・コープこうべ組合員向け広報誌「きょうどう」掲載取材（掲載は平成31年4月）

(5) 企業との連携

- ・株式会社ドンク（一般財団法人藤井幸男記念・教育振興会より夢ゼミ時に焼き立てパンの差し入れ。ドンクの友近会長による夢ゼミ講師「ドンクの会社紹介・パン作り等」）（12月）
- ・神戸新聞社（三好正文アドバイザーによる夢ゼミ講師「論文書き方」）（12月）

(6) 大学との連携

- ・ESD推進ネットワークひょうごに加盟（12月）（神戸大学松岡広路教授、神戸高専高田知紀准教授）
- ・東京大学先端科学技術研究センター（湯浅誠教授、中邑教授他）、首都大学東京 阿部彩教授とのヒアリング

5. 令和元年度の主な成果と令和2年度課題

- (1) 学園都市校では、過去最多となる卒業生16名全員が高校進学を果たした（公立一般5名、公立推薦3名、私立8名）。新たに3年生を対象に外部模試を導入し、成果検証（ほぼ全員の偏差値上昇）、進路指導等に活用した。夢ゼミを毎月開催（年間11回）し、大学生のプレゼンが中学生の将来や学習モチベーションに大きな刺激になったことがアンケート結果からも明らかになっており、さらに神戸新聞、ドンク等に講師参加いただく等、企業との連携の契機につながった。
- (2) 本山校では、コープ共済連の2019年度助成事業採択によりコープこうべとの連携が深まり、初の通年開校を実現した（平成30年8月開校）。夢ゼミも1月に初開催でき、今後定期的開催し、大学生・中学生双方の研鑽やモチベーション向上につなげたい。一方で、3年生4名が高校進学を果たすも公立一般入試の合格は叶わず、教育の質充実の課題が喫緊の課題となった（公立推薦1名、私立3名）。スタッフ・講師の確保と育成により、安定した体制構築から着手していく必要がある。
- (3) 上記2校の運営において、新規応募が続く大学生講師等に、団体方針を共有し、効果的な教育支援を習得させるための研修プログラムの必要性が高まっている。また、発達障害や不登校経験の個別な事情を持つ子どもの支援において、プログラム化や講師研修などの整備

が必要である。東大先端研やラーニングフォーオールと連携した教育体制の構築を令和2年度の課題として取り組んでいく。

- (4) 財源確保の取り組みでは、一般財団法人大吉財団からの資金・運営面に渡る支援(2年目)に加え、新たにコープ共済連、BE KOBE ミライ基金、ユニティから助成金を獲得したことが2校の教室の規模拡大や外部模試導入等の新規事業の原動力となった。パナソニック教育財団の優秀賞受賞は、活動情報の発信にも貢献した。

安定した運営体制確保のためには寄付金等の自主財源を増やす取り組みが重要であり、令和元年度は寄付金メニューを増やし、定期的な新聞報道や毎週FB等で発信することにより、寄付金収入は着実に増えており、令和2年度も税控除のメリットがある共感寄付を活用し、一般寄付のさらなる増加を図るとともに、企業との連携の拡大を模索する必要がある。

- (5) 市内他団体との連携では、当団体が呼びかけ、主要7団体から構成される協議会の活動として、湯浅誠氏講演会等を開催することができた。今後も、大学生の研鑽やモチベーションアップに資する取り組み、団体間の連携方策を具体化していくことが求められる。また、新たに加盟したESD推進ネットワークひょうご等の活動を通じて、神戸大学や市内各団体との連携を図っていく。